



消防法の改正 無料診断 実施

消防法の改正

非常用自家発電には
下記点検が必要

電気事業法の定期点検

消防法の定期点検

実負荷及び疑似負荷での定期

東日本大震災の時

多くの発電機が動かなかった事が
報告されています

「もしも」
の前に点検を



東日本大震災時に、正常稼働できなかった自家発電機の

通達により強化された背景



始動したが異常停止したもの



引用：(社)日本内燃力発電設備協会

2011年(平成23年)東日本大震災時に、正常稼働できなかった自家発電機の約70%が点検不備によるものでした。平成18年6月1日に総務省消防庁より通達され、『年1回の非常用発電機の定格出力確認の義務化』となりました。非常時に、非常用発電機を使えるようにする。その為に、コンプライアンスに基づく定期点検と報告が必要なのです。

※東日本大震災では233台の非常用発電設備が、不始動または稼働はしましたが何らかの理由で稼働を停止しています。

株式会社ロジコム

〒984-0015

宮城県仙台市若林区卸町5-6-10 仙台団地倉庫卸町ビル1F



022-349-8370

お気軽にお問い合わせください



022-349-8371

FAXも承っております

そもそも、負荷試験とは？



非常用発電機健康診断

負荷試験とは非常用発電機を動かし負荷をかけて、規定どおりの能力を発揮できるか試験を行うことをいいます。

通常行っています試運転だけでは、災害時にちゃんと機能が発揮できるかは不透明です。車に例えるならば、空ぶかしだけを行っているようなものです。

負荷試験を行う事により発電機に負荷を与え、発電機が機能するか、不具合がないかを確認できます。

当然、高負荷をすぐに掛けるのではなく、段階的に負荷を発電機に加えます。

車で例えるならば、近所の買い物→幹線道路→バイパスなどの多車線道路→高速道路といった具合に段階を踏んで行っていきます。

試験を行う事業者が圧倒的に少ないため高コストとなり、動くかどうかの確認だけで済みますケースが多いようです。また、実際に負荷運転を行う事により、経年劣化によるホース類の亀裂、エンジンからのオイル漏れ、クーラントやエンジンオイルの容量不足などが発見でき、非常用発電機の現状が把握できます。



低コスト・短時間での実施が可能となった最新の負荷試験

従来までの負荷試験機は、大型で重量もあるためトラックでの搬入や大掛かりな点検スペースが必要としていました。また、施設側の停電など必要となり作業時間も長時間に及び、作業員も最低でも5名程度を必要とした為、負荷試験料金も非常に高額となっていました。現在は、小型軽量化した最新の負荷試験装置を使用するため、オペレータを含め2～3名の人員と最短3時間程度の作業時間による実施が可能となりましたので、低コスト・短時間での非常用発電機の負荷試験実施が可能となりました。また、停電にする必要がありません。



有資格者による、安全・安心な負荷試験

近年、疑似負荷試験機を購入し無資格で負荷試験を行っている悪質な業者が増えてきております。当社は、消防設備点検資格者や電気工事士などの有資格者が負荷試験を行っております。また発電機も200V/400V/6600Vと多種多様な発電機にも対応いたします。

株式会社ロジコム

〒984-0015

宮城県仙台市若林区卸町5-6-10 仙台団地倉庫卸町ビル1F



022-349-8370

お気軽にお問い合わせください



022-349-8371

FAXも承っております

会社概要

社名	株式会社ロジコム
代表者	代表取締役 小山 幸也
所在地	〒984-0015 宮城県仙台市若林区卸町5-6-10仙台団地倉庫卸町ビル1F
TEL	022-349-8370
FAX	022-349-8371
資本金	10,000,000円
設立	2009年 1月
取引銀行	七十七銀行 / 商工組合中央金庫
事業内容	一般貨物自動車運送業/一般乗務用旅客自動車運送業/ 貨物軽自動車運送業/産業廃棄物収集運搬業/特別管理 産業廃棄物収集運搬業/古物商/非常用発電機負荷試
主要取引先	SGムービング(株)/SBS三愛ロジスティクス東日本(株)/ /(株)関東エース/(株)高速/サントリーロジスティクス(株)/ 東北西濃運輸(株)/日本通運(株)/ヤマト運輸(株)



代表挨拶

2011年(平成23年)に発生した東日本大震災以降、自家用発電機の重要性が改めて認識され、それを管理する設置管理者・所有者、企業、病院、公共施設等が社会の安心・安全を推進していく責務を果たす必要性が改めて問われております。

そのため弊社は緊急時に備え、非常用発電機の不始動・停止の最大要因であるメンテナンス不備の無いよう、そして非常時にしっかりとその役目が果たされるよう点検・確認を行っております。

我々の取り組みが地域社会の防災意識を高め、社会インフラの安全、安心推進の一助となれば幸いです。

アクセスマップ



株式会社ロジコム

〒984-0015

宮城県仙台市若林区卸町5-6-10 仙台団地倉庫卸町ビル1F



022-349-8370

お気軽にお問い合わせください



022-349-8371

FAXも承っております

負荷試験・実績紹介

地域	施設	種別	発電機容量	設定負荷率
宮城	消防署	ディーゼル	低圧 110kVA	30%
山形	マンション	ディーゼル	低圧 180kVA	30%
岩手	タワーマンション	ディーゼル	高圧 1100kVA	30%
福島	F 総合病院	ディーゼル	高圧 600kVA	30%
宮城	消防署	ディーゼル	低圧 110kVA	30%

疑似負荷試験実施風景

1.打合せ・KY	2.安全処	3.点検・配線	4.ダミー試験	5.最終確認
				
09:00 現場に到着後、ご担当者様と打合わせし、KYを開始します。	09:30 発電機の急始動を防ぐ為に安全処置、検電を行います。	10:00 残留や汚れ、試運転など、総合点検を行い、配線を行います。	11:00 疑似負荷試験機を用いて、負荷を10%から上げていき30%負荷試験を30分を行います。	11:50 離線と発電機に異常がないか確認し、試験前の状態に復旧し、お客様にお返しします。

株式会社ロジコム

〒984-0015

宮城県仙台市若林区卸町5-6-10 仙台団地倉庫卸町ビル1F



022-349-8370



022-349-8371

お気軽にお問い合わせください

FAXも承っております

○消防法の改正について

自家発電設備の点検方法が改

非常用自家発電機には 3 つの点検が必須

1

電気事業法の定期点

電気系統と5分程度の
無負荷(空ふかし)によ
る
エンジン試運転

2

消防法の定期点検

6カ月に1回の
機能目視点検と1年に
1回の無負荷(空ふか
し)
によるエンジン試運転

3

30%以上の負荷試験

上記1及び2いずれも1年に1回、
30分30%以上の負荷をかけ、
無負荷(空ふかし)運転で堆積
したカーボンを燃焼排出させて、
非常時に最低必要となる30%
以上出力を確認し、その観測
データを添付する事 ※条例により
負荷率を設定していない自治体もあります。

今迄1度も 30% 出力点検をされた事が無い発電機は出来るだけ早い時期に
負荷点検を実施し、非常時の出力電源の確認を行ってください。

平成30年6月1日に消防用設備等の点検基準及び消防設備等点検結果報告書に添付する点検票の様式一部が改正されました。
(消防予第372号)

○消防法改正のポイント

負荷運転に代えて行うことができる
点検方法として内部観察等を追加

以前 → 負荷試験のみ

改正 → 負荷運転または内部監察

CHECK

1

負荷運転及び内部観察等の点検周期を
6年に1度に延長

CHECK

2

以前 → 1年に1回

改正 → 運転性能の維持に係る予
防的な保全策が講じられ
ている場合は6年に1度

以前 → 負荷運転時に実施

改正 → 無負荷運転時に実

換気性能点検は負荷運転時ではなく
無負荷運転時等に変更

CHECK

4

CHECK

3

以前 → 全ての自家発電設備に
負荷運転が必要

改正 → 負荷運転または内部監察

原動機にガスタービンを用いる
自家発電設備の負荷運転は不要(任意)

株式会社ロジコム

〒984-0015

宮城県仙台市若林区卸町5-6-10 仙台団地倉庫卸町ビル1F



022-349-8370

お気軽にお問い合わせください



022-349-8371

FAXも承っております